

Protozoology Newsletter

September, 2011

日本原生動物学会会報 (No. 21)

URL: <http://www.soc.nii.ac.jp/jsproto/>

第44回大会(奈良)のご案内(第2報)

平成22年度 学会賞・奨励賞 受賞者コメント

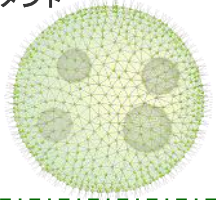
平成22年度大会 BPA 受賞者コメント

若手の会 通信

原生動物学関連の学会開催情報

事務局からのお知らせ

編集委員会からのお知らせ



第44回 日本原生動物学会大会(奈良)のご案内(第2報)

大会長 春本 晃江(奈良女子大学 理学部)

【大会ホームページ】 <https://sites.google.com/site/jsop2011nara/>

【各種締切】 参加申込み: 9月30日(金) プログラム掲載用抄録: 9月30日(金) 英文抄録: 11月10日(木)

1. 会期 2011年11月11日(金)～11月13日(日)
2. 会場 奈良女子大学 S棟 S235 大講義室(一般講演、総会、特別講演)
奈良女子大学 大学会館(若手の会、評議員会、懇親会)
奈良女子大学ホームページ <http://www.nara-wu.ac.jp/>
3. 大会事務局 〒630-8506 奈良市北魚屋西町 奈良女子大学 理学部生物科学科
第44回日本原生動物学会大会事務局 大会長 春本 晃江
Tel: 0742-20-3421 (春本携帯: 090-9099-7984)
Fax: 0742-20-3421 E-mail: harumoto@cc.nara-wu.ac.jp
4. 発表 一般講演
(1) 口頭発表 15分(発表12分、討論3分)
発表には液晶プロジェクターを使用します。各自でパソコン(PC)をお持ちください。35mmスライドおよびOHPは使用できません。PCの操作は発表者をお願いします。前もって動作を確認してください(午前の発表者は8:10-8:50の間または中休みの間に、午後の発表者は昼休みをお願いします)。
(2) ポスター発表
ポスターは最大で縦170cm x 横110cmに収まるようにご注意ください。ポスターは11月12日(土)12:15から11月13日(日)13:00まで掲示しておいてください。11月11日(金)の午後から掲示できます。ポスターは11月13日(日)15:30までに撤去してください。
※ 発表は日本語あるいは英語で行ってください。なお、発表演題数により、発表方法・発表時間の変更をお願いする場合がありますので、ご協力をお願いいたします。
5. 若手の会・評議員会合同懇親会 11月11日(金)18:00より奈良女子大学 大学会館1階 国際交流プラザにて行います。どなたでもご参加いただけます。
6. 大会懇親会 11月12日(土)18:00より奈良女子大学 大学会館1階 生協食堂にて行います。
7. 参加費 大会当日に会場受付にてお支払いください。
大会参加費: 一般会員 3,000円 学生会員 1,000円
若手の会・評議員会合同懇親会費: 2,500円
大会懇親会費: 一般会員 5,000円 学生会員 3,000円

【参加申込用フォーマット】

- 1) 郵便番号
- 2) 住所
- 3) 所属
- 4) 氏名(ふりがな)
- 5) 電子メールアドレス
- 6) 電話番号
- 7) 一般・学生 (どちらかを選択)
- 8) 発表 あり・なし (どちらかを選択)
- 9) 若手の会ワークショップ 参加・不参加 (どちらかを選択)
- 10) 若手の会勉強会 参加・不参加 (どちらかを選択)
- 11) 若手の会・評議員会合同懇親会 参加・不参加 (どちらかを選択)
- 12) 大会懇親会 参加・不参加 (どちらかを選択)
- 13) 12日(土)の昼食(500円程度) 希望する・希望しない
- 14) 13日(日)の昼食(500円程度) 希望する・希望しない
- 15) その他連絡事項(大会開催時に託児が必要な方もここに記入してください)

※ 11月12日(土)は生協食堂も営業しておりますが、混雑が予想されます。11月13日(日)は生協食堂は営業していません。今年度は新たな試みとして、ポスター発表時に昼食をご用意致しますので、できるだけこちらをご利用ください。

8. 参加申込み 「参加申込用フォーマット」に従って、大会事務局の電子メールアドレス(harumoto@cc.nara-wu.ac.jp)にお送りください。件名は「参加申込み」としてください。なお、電子メールをご利用にならない場合は、事務局までお問い合わせください。締切は2011年9月30日(金)です。なお、10月12日(水)までに事務局から返信メールが届かない場合には、お手数ですが、大会事務局にお問い合わせください。

9. 一般講演の発表申込み 発表の申込みは、次の「プログラム掲載用抄録作成要領」に従って作成し、参加申込みと共にメールの添付ファイルとして大会事務局(harumoto@cc.nara-wu.ac.jp)に送信してください。締切は9月30日(金)です。なお、10月12日(水)までに大会事務局から返信メールが届かない場合には、お手数ですが、大会事務局にお問い合わせください。発表は1人1題です。共同研究者が発表する場合には、発表申込みは必要ありません。実際に発表する方は日本原生動物学会の会員に限られます。学会未加入の発表予定者は、予め入会手続きをお願いします。入会申込書は原生動物学雑誌の各巻1号末か学会ホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/jsproto/>)にありますので、記入後、日本原生動物学会事務局に郵送してください。

【プログラム掲載用抄録作成要領】

※ 下記のフォーマットに従い、MS-Wordで作成し、97-2003形式で保存してください。Macユーザーはファイル名に“.doc”の拡張子を付けてください。

- 1) 発表の形式 口頭発表・ポスター発表 (どちらかを選択)
※ 発表演題数により、発表方法・発表時間の変更をお願いする場合がありますので、ご協力をお願いいたします。
- 2) 和文タイトル
- 3) 和文発表者氏名 (全員)(所属)
※ 共同研究の場合は発表者の前に○を付けてください。所属が異なる場合は上付きの1, 2, 3...で区別してください。
- 4) 英文タイトル
- 5) 英文発表者氏名 (全員)(所属)
- 6) 和文抄録 (全角250字以内)

※ 和文で2)、3)と6)を準備できない方は、大会事務局(harumoto@cc.nara-wu.ac.jp)にご相談ください。

※ 35歳以下(平成23年6月30日現在)の筆頭発表者を対象とした「ベストプレゼンテーション賞(BPA)」が選考・授与されます。該当する発表者はタイトルの後に「BPA対象演題」と必ずご明記ください。

【英文抄録(原生動物学雑誌掲載用)作成要領】

※ 編集委員会は和文・英文の抄録を学会ホームページに掲載します。今年度から、従来の原生動物学雑誌掲載用の長文の講演要旨の作成は不要です。ホームページ掲載用の英文抄録の原稿は、下記の要領に従ってMS-Wordで作成し、97-2003形式で保存してください。Macユーザーはファイル名に“.doc”の拡張子を付けてください。英文抄録用原稿は、大会前日(11月10日厳守)までに、大会事務局(harumoto@cc.nara-wu.ac.jp)まで送信してください。件名は「英文抄録」としてください。なお、電子メールをご利用にならない場合は、大会事務局までお問い合わせください。

- 1) 英文タイトル
- 2) 英文発表者氏名 (全員)(所属)
※ 共同研究の場合は発表者の前に○を付けてください。所属が異なる場合は上付きの1, 2, 3...で区別してください。
- 3) 英文抄録 (200 words以内)
※ 英文は著者の責任で適切な校閲を行った上でご提出ください。

10. 宿泊

近鉄奈良駅や三条通り、JR 奈良駅周辺に各種ホテルがありますので、各自でご予約ください。10月29日～11月14日は奈良国立博物館において正倉院展が開催されており、ホテルの部屋がなくなることが予想されますので、**できるだけ早く予約をしてください**。近鉄新大宮駅付近にもホテルがあります。近鉄奈良駅までは電車で5分程度です。以下は8月11日現在、空室のあるホテルの例（1泊シングル料金のめやす）です。

スーパーホテル JR 奈良駅前	4,980 円	天然温泉スーパーホテル LOHAS・JR 奈良駅	6,480 円
コンフォートホテル奈良	7,800 円	スーパーホテル 奈良新大宮駅前	5,280 円
ビジネスホテル たかまど	5,250 円		

11. 大会スケジュール

11月11日（金）

14:00-16:15 若手の会ワークショップ
14:00-18:00 評議員会
16:30-17:30 若手の会勉強会
18:00-20:00 若手の会・評議員会合同懇親会

11月12日（土）

9:00-12:00 口頭発表
12:00-12:15 記念撮影
12:15-14:00 昼食 ランチョンポスター発表
14:00-16:30 口頭発表
16:30-18:00 総会、奨励賞授賞式
18:00-20:00 大会懇親会

11月13日（日）

9:00-12:00 口頭発表
12:00-13:00 昼食 ランチョンポスター発表
13:00-15:10 特別講演会
「古都奈良から発信する生命の起源仮説」
15:10- BPA 授賞式

※ 特別講演会の詳細は近日中に学会 HP でお知らせします。
※ スケジュールは変更されることがあります。



12. アクセス

近鉄奈良駅が最寄り駅で、大学まで徒歩5分。

JR 奈良駅からは、大学まで徒歩で約15分、または市バスで近鉄奈良駅まで約5分。

京都駅からは、近鉄京都線で近鉄奈良駅下車。

大阪駅からは、JR 大阪環状線（外回り）で鶴橋へ、近鉄奈良線で近鉄奈良駅下車。

新大阪駅からは、JR 東海道本線で大阪駅へ、JR 大阪環状線（外回り）で鶴橋へ、近鉄奈良線で近鉄奈良駅下車。

関西国際空港と大阪空港からは、近鉄奈良駅と JR 奈良駅まで空港バスが出ています。

車での入構も可能ですが、お車でお越しの方は大会事務局までお問い合わせください。



奈良女子大学へのアクセス

近鉄奈良駅1番出口から出て北へ歩いて正門からお入りください。

11日（金）午後8時までは南門も開いています。南門へは近鉄奈良駅5番出口が便利です。



奈良女子大学 キャンパス構内図

若手の会、評議員会、懇親会は、大学会館へお越しください。

大会受付、一般講演（口頭発表・ポスター発表）、総会、特別講演会は、総合研究棟（文学系S棟）内の西側の端へお越しください。

【託児施設のご案内】

大会会期中は大学の一時預かり施設「ならっこルーム」を利用して託児を行います（有料）。必要な方は参加申込書の連絡事項にご記入の上、詳細を大会事務局までお問い合わせください。

平成22年度 学会賞 受賞者コメント

岩本 政明 (IWAMOTO, Masaaki) 情報通信研究機構 未来ICT研究所・専攻研究員

7年前、ハワイ大学の Richard D. Allen さんのラボにいた私は、次の行き先を探していました。織毛虫研究を続けるならアメリカ本土へ、日本に帰るなら分野を変えようと考えていました。どちらにしても最優先に求めているのは、分子生物学的手法を習得できる環境であること。恥ずかしながら、それまで DNA などに触れたことがなく、そのことが引け目であったと同時に、研究を続けていくにはその習得は不可欠と遅まきながら感じていたからです。幸い、第一希望だった現在のラボに採用してもらえらることになり、帰国しました。

赴任したこのラボでは、分裂酵母と高等動物の培養細胞を用いて、細胞核と染色体の構造と機能に関する研究が行われていました。私の最初の研究テーマは、遺伝子破壊を行うことができるニワトリ DT40 細胞を用いて、核膜構築に関与すると予想される因子の分子機能を調べるというもので、分子生物学的手法を習得したい私にとっては打ってつけのものでした。ところが思うように目的遺伝子の破壊株が得られず、研究が停滞状態だった時に、上司の原口徳子さんが、研究材料としてテトラヒメナを導入することを勧めてくれたのです。織毛虫研究はずっと辞めたつもりでいたので戸惑いましたが、やってみることにしました。

ラボの大テーマが細胞核だったこともあり、テトラヒメナの核膜孔複合体の構造を調べることにしました。大核と小核の核膜孔複合体は同じなのか違うのか、違うならどう違うのか、考え始めるとどうにも答えが知りたくてしなくなりました。既に基本的な分子生物学的手法は習得していたので、テトラヒメナに対する遺伝子操作を問題なく適用でき、程なく大核と小核の核膜孔複合体の構造の違いを見つけ出すことができました。

織毛虫研究をいったん辞めた私が、原生動物学会から学会賞をいただけることになったのは運命の巡り合わせでしょうか。ならばその運命に従い、これからもテトラヒメナとの付き合いを続けていこうかと思えます。自分が夢中になれて、同時に他人も惹きつける、そういうおもしろい研究をして、研究モデルとしての織毛虫の魅力を広めていきたいと考えています。



Oriasさん（中央）、Van Houtenさん（右）と。FASEB meeting 2011にて

平成22年度 奨励賞 受賞者コメント

保科 亮 (HOSHINA, Ryo) 立命館大学 生命科学部・助手

原生動物、という世界に足を踏み入れたのはポストドクとして立命館大学にきてからでした。扱った生き物は日本原生動物学会でも不動の人気を誇る(^_^)ミドリゾウリムシです。まず驚いたのが、研究室で用意されていた文献集の古さと数でした。これだけ研究されてきたミドリゾウリムシを対象にして、これ以上やることがあるのだろうか。ありました。いくらかもありました。研究室、あるいは研究チームで取り組み始めた研究テーマは多岐にわたりましたが、私のもっとも興味を持ったのは、ミドリゾウリムシ内に共生している藻の正体でした。かなり古くから共生藻の正体を探る研究はあるのですが、研究者によって、あるいは方法論によって結論はまちまち。そしてこの正体があやふやである限り、彼らの共生関係も、さらには共生藻の生理現象の研究も、過去や他者の研究結果と比較して良いのかさえ怪しくなってくるわけです。同じ生き物の話をしているのかどうかさえ判断としないのですから。結局は ITS2 という分子の比較から共生藻を分類できるようになったのですが、この手法はもしかすると他の原生生物、シンジエンや隠蔽種など様々な問題を抱える分類群にも応用できるのではないかと期待を寄せています。

末筆になりましたが、ご推薦いただきました立命館大学の今村信孝先生、並びにご選考いただきました諸先生がたに感謝いたします。



ECOP 2011ベルリンにて。平成20年度の奨励賞受賞者、児玉有紀先生と

平成22年度 大会 Best Presentation Award 受賞者コメント

早川 (芝野) 郁美 (HAYAKAWA (Shibano), Ikumi)

京都大学大学院 理学研究科・修士2年

第43回日本原生動物学会大会において、ベストプレゼンテーション賞(BPA)を受賞しました。今回の大会では、とにかく細胞性粘菌の宣伝になればと考えて発表しましたので、賞を頂けるなど全く予想していませんでした。賞状と記念品の素敵なTシャツを手にしても、(お酒が入っていたのもあって)しばらくは夢のようでした。受賞して何よりありがたかったのは、多くの方に声をかけて頂き、研究についてお話をすることが広がったことです。細胞性粘菌の知名度を上げるという使命も無事果たされ、この大会はこれまでの研究生活で最も有意義な経験となりました。これからも初心を忘れず、生物の新たな面白さを過不足なく伝えていける研究者でありたいと思います。最後になりましたが、学会に参加された全ての方々、演題を選出して下さった評議員の方々、いつもの確かなアドバイスを下さる井上敬先生、そして実験に協力頂いた細胞性粘菌の皆様深く感謝致します。



武内 史英 (BUNAI, Fumihide)

筑波大学大学院 生命環境科学研究科・研究生

昨年、私は茨城大学で行われた第43回日本原生動物学会大会においてベストプレゼンテーション賞(BPA)を頂きました。選出頂きました評議員の先生方に厚く御礼申し上げます。また本研究を進めるにあたりご指導して下さいました情報通信研究機構の岩本政明博士、生物情報グループの皆様深く感謝申し上げます。私はこれまでの研究生活において、このような賞を頂いたことはなく、大変うれしく思う次第です。今回の賞を頂いたことを励みにライフサイエンスの世界で新たな現象の発見に挑戦していきたいと考えております。



若手の会通信

若手の会HPをぜひご覧ください

<http://www.geocities.jp/youngprotozoologists/>

若手の会メーリングリストへのご登録をお願いします

protozoologists-subscribe@yahoogroups.jp に空メールを送るだけ!

「若手の会 2011 in 奈良女子大学」のご案内

本会は、原生生物を研究する若手研究者の相互交流や知識を深め、若手研究者が成長することを目標に活動しております。今年の奈良大会では、下記通り、若手研究者による「ワークショップ」、先生を招いて研究の楽しさや厳しさについて教えていただく「勉強会」、うれし楽しい「懇親会」を開催します。若手研究者の方は勿論、先生方や一般の方も参加可能です。是非皆さん参加してください。

スケジュール 11月11日(金)

- | | |
|-------------|-----------------------------------|
| 13:00- | 受付 (奈良女子大学学生会館2階大集会室) |
| 14:00-16:15 | 若手の会ワークショップ (同上) |
| 16:30-17:30 | 若手の会勉強会 (同上) |
| 18:00-20:00 | 若手の会・評議員会 合同懇親会 (学生会館 1階 国際交流プラザ) |

若手の会ワークショップ、勉強会、懇親会への参加は、大会申し込みフォームよりお申し込みください。ワークショップ発表申し込み、その他、不明な点などは西上 (amoeba_gami@yahoo.co.jp)まで宜しくお願いします。

日本原生動物学会 若手の会 西上 幸範

若手の会ワークショップ 発表者募集中! 発表者募集締め切りは9月30日(金)

原生生物研究を志す若手研究者が、専門外の人にも理解できるように研究背景や、生き物の自慢も含めて自分の研究について話す会です。今年度は一人につき20~30分の発表を予定しています。例年、多くの若手研究者と先生方が参加されますので、自分の研究や考えをアピールする絶好の機会になると思います。また、ワークショップで発表することで、思わぬアドバイスをいただける場合もあります。発表は原生生物研究を行う若手研究者であれば誰でも可能ですので、この機会に是非、発表してください。

会場: 奈良女子大学 学生会館 2階 大集会室

発表内容: ご自分の研究テーマ (発表・未発表は不問)

発表形式: プロジェクターによる口頭発表

発表時間: 1人 20~30分程度 (質疑応答含む)

発表者数: 4~5名 (予定)

発表希望者は西上 (amoeba_gami@yahoo.co.jp)までご連絡ください。

若手の会勉強会

ワークショップ終了後に、興味深い研究や生き物を扱っている先生をお招きして、これまでの仕事の話や、研究人生について語っていただく会を開催します。皆様の参加、お待ちしております。

会場: 奈良女子大学 学生会館 2階 大集会室

若手の会・評議員会 合同懇親会のご案内

若手研究者から先生方まで、多くの方々の参加をお待ちしております。

場所: 奈良女子大学 学生会館 1階 国際交流プラザ

会費: 1人 2,500円

若手の会 役員募集!!

日本原生動物学会若手の会役員募集中!! 私たちと一緒に若手の会の企画、運営をしてみませんか? 35歳以下の原生生物研究者なら誰でも役員になることができます。興味のある方は西上 (amoeba_gami@yahoo.co.jp)までご連絡ください。

第8回 アジア繊毛虫生物学 および 第1回アジア原生動物学会議 日時：2011年10月3日(月)～5日(水)

会場：韓国 Jeju 連絡先：President of Korean Society of Protistology: Dr. Joong Ki Choi (E-mail: jkchoi@inha.ac.kr)

事務局からのお知らせ

会員の皆様へのごお願い

所属や雑誌送付先等の変更が御座いましたら、速やかに事務局へご連絡いただけますようお願い致します。また、経費節減のため、会費の納入は、ゆうちょ銀行の電信振替(口座番号：00810-7-46123, 加入者名：日本原生動物学会)をご利用頂けますと幸いです。

学会事務局 堀 学 E-mail: mhori@yamaguchi-u.ac.jp
〒753-8512 山口大学理学部生物・化学科

編集委員会からのお知らせ

原生動物学雑誌の web 化についてのアンケート調査延長のお知らせとアンケート調査へのご協力のごお願い

編集委員会では、標記のアンケート調査へのご協力をお願いを、メーリングリストを通じて今年の6月より都合3回(6月2日, 6月28日, 7月31日)ご連絡いたしました。現在までで全会員の23%の回答率しか得られておりません。このアンケートは、本学会の学会誌である原生動物学雑誌の将来の方向性を左右する重要なものであり、どれだけ多くの学会員皆様の意見を反映させたものであるかが、重要な条件として求められます。

アンケートがお済みでない方は、是非ともすぐにアクセスしてご回答いただけるよう、お願い申し上げます。また、すでにご回答された先生方におかれましても、研究室の学会員の方(学部生、大学院生など)をアンケート回答に誘導して下さいますよう、お願い申し上げます。

アンケートは Google 上のサイトを使用したものですが、これを学会の HP 上に再リンクしております。学会 HP 上には、以下に示す URL がリンクされておりますので、このサイトに入って頂き、会員の皆様の氏名および所属名(大学、所属学校名、あるいは会社名など簡単なもので結構です)をご記入後、アンケートへの回答をお願いしたいと存じます。このアンケートの締切は、2011年11月15日までと致しますが、編集委員会では、少なくとも過半数の回答を頂くまでは継続する意向でおります。出来るだけ多くの会員の声を聞かせて頂きたいと考えておりますので、宜しくお願い致します。

URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsproto/questionnaire.html>

【これまでの中間報告】

これまでの集計では、賛成がおおよそ85%、反対がおおよそ7%、どちらでも良いがおおよそ7%となっています。アンケート回答の御参考に、Web Journal 化に関する質問の例と、それに対する編集委員会からの回答を下記に示しております。ご一読頂けると有り難く存じます。

冊子体の完全廃止であるのか？

一部の機関等への冊子体配布は継続いたします。また、会員への配布に関しましては皆様のご意見を頂戴した後に、廃止あるいは、会員全体への情報伝達の手段を保つため、希望する会員に対しては今後も何らかの手段で印刷媒体の配布をおこないたいと考えておりますので、完全廃止を唱えるものではありません。

Web 化すると読まれなくなるのではないのか？

現代に至っては、PDF でダウンロードすることに身近さを感じる世代もおり、論文を執筆する場合には様々な論文を検索し引用致しますが、PDF でダウンロードすることの利便性は非常に大切です。

皆様のご助力により、本雑誌の論文が引用されて行けば、むしろ多く読まれるようになるのではないのでしょうか。海外や国内の異分野の研究者に引用される以前に、本学会員が一致団結して、引用の努力を行い、より多くの方に読んで頂ける国際誌に育て上げて行く努力が必要かと存じます。

どのような雑誌として位置づけるのか？

国際的学会誌として、異分野も含めた世界中の多くの研究者によりアクセス可能な雑誌としたいと考えております。また、投稿論文の内容を適性に審査するために、国内外の学会員以外の審査員を加えた厳格な審査制度を備えた早期公表の国際誌となることを目指します。

すでに Web 化しているのではないのか？

HP のように Web 上にあるだけで広範なアクセスが得られる訳ではなく、海外のジャーナルサイト上の論文と相互リンクが張られてこそ、広範なアクセスが実現します。したがって、J-STAGE への掲載により、Digital Object Identifier (DOI) を取得・付与し、海外の様々な電子ジャーナルサイト上の論文と相互にリンクが張られることが大切であると考えています。

邦文と英文の論文の扱いはどうするのか？

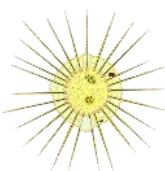
同一雑誌タイトルで、邦文ページと英文ページを分離し、海外への発信(リンク)は英文ページだけにする計画であります。邦文ページも大切な学術資料として国内向けに残す方針であります。

Web Journal にして削減できる経費は？一部でも冊子体刊行を続けると経費削減にならないのではないのか？

現在の年間の印刷に係る諸経費は、300部の印刷代、郵送代を含めて例年60～70万円程度であります。これに対して、現行の90ページの雑誌を想定した場合の諸経費(電子ジャーナル作成費、50部程度の印刷費、およびJ-STAGE 対応費)の見積もりは、30万円程度となります。

昨年度の総会でご説明申し上げますように学会の予算状況は逼迫しています。したがって、学会費支出の大部分を占める編集経費の削減は、重要な問題であります。

編集委員長 石田 正樹 E-mail: masaki@nara-edu.ac.jp



編集・刊行 日本原生動物学会 編集局

〒630-8528 奈良県奈良市高畑町 奈良教育大学内(編集委員長：石田 正樹)

Tel / Fax: 0742-27-9198 E-mail: masaki@nara-edu.ac.jp

ニュースレター編集担当 末友 靖隆(岩国市立ミクロ生物館)

NewsLetter21号は学会ホームページからもダウンロードできます。非会員の方への宣伝等にぜひご活用ください。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsproto/journal/nl-21/NL21.pdf>